

北朝鮮は、今年に入って「水爆実験」(1月)、「地球観測衛星の打ち上げ」(2月)に続いて「中距離ミサイル・ノドン」の発射(3月)、さらに核弾頭爆発実験、弾道ミサイル発射を予告するなど、世界はその行動に振り回されている感があります。この機に乗じて自・公政権は、「戦争法廃止で日本は守れない」と言い、マスコミも「日本全土を射程に収める開発に成功」(産経)などと喧伝しています(3月21日時点)。この問題を考えるため、おそれず、あなどらず、冷静沈着に対応するため、いくつかのデータを整理してみました。

### くらしはどうか、関係国の国民総生産

北朝鮮の人々のくらしは「貧しい」と報道されていますが、経済力の一つの指標である国民総生産は次のとおりです。

	国民総生産	一人あたり GDP
日本	4兆9207億ドル	38,644ドル
中国	9兆1812億ドル	6,626ドル
米国	16兆7681億ドル	52,392ドル
ロシア	2兆0968億ドル	14680ドル
韓国	1兆3046億ドル	26,482ドル
北朝鮮 ※	135億ドル	696ドル

ちなみに北朝鮮の国民総生産は、韓国の約100分の一、日本の約360分の一、国土面積は日本の三分の一、人口は約2500万人。

(世界の統計2015、統計でみる日本2013 ※は国連統計グローバルノートによる)

### 「北朝鮮は日本に攻めてくる」か? これまでの北朝鮮の約束

挑発を繰り返す北朝鮮でも、それなりの要因・理由がない限りやみくもに日本を攻撃できるものではありません。まして北朝鮮は当事者として自らも参加したこれまでの国際間の合意を守る義務があります。

**第一** 小泉総理と金正日総書記という両国トップが調印合意した2002年の日朝平壤(ピョンヤン)宣言は、

- 1、日朝国交正常化を早期に実現させる
- 2、日本は過去の植民地支配を反省し詫びる
- 3、双方はお互いの安全を脅かす行動はとらない
- 4、核・ミサイル問題で対話し、問題を解決する、ミサイル発射は延期する、など。

の内容です。

**第二** 核問題については、北朝鮮自身が2005年と2007年の二回にわたって六か国協議(北朝鮮を含む日本、韓国、中国、米国、ロシア)で「平和的な方法による朝鮮半島の

検証可能な非核化」を確認し、北朝鮮は「すべての核兵器および既存の核計画を放棄すること」を約束、米国は北朝鮮に「核兵器または通常兵器による攻撃または侵略を行う意図を有しない」と表明しています。

**第三** 北朝鮮と韓国の二国間の「南北共同宣言」は、両国間の交流と協力、平和的な統一に向けた努力を確認しています。

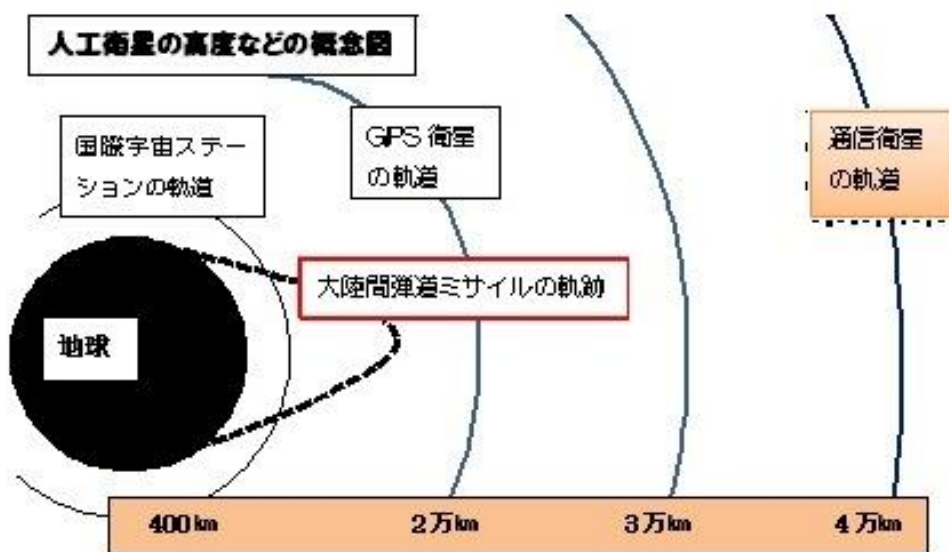
### 北朝鮮と韓国は休戦状態

同時に、北朝鮮と韓国間は、1950年に始まった朝鮮戦争が終結しておらず、現在は米・中・北による休戦協定期間中にあるという事実もしっかり押さえておかねばなりません。北朝鮮と韓国との間で今でも小規模戦闘が発生しています。北朝鮮は核兵器を数発保有しているといわれていますが、運搬手段は開発途上です。仮に北朝鮮の暴発があれば直接には韓国、アメリカとの間であり、日本が対象となるのは「アメリカと一体だ」と判断したときです。国連の制裁決議を受けている国ですが、一方で国連加盟国の八割の国と国交を持っています。正式の外交ルートがないのはアメリカ、日本など少数です。

### ロケット・人工衛星、ミサイル・大陸間弾道弾の高度や速度など

人工衛星の高度は、放送・通信衛星や気象観測衛星が36,000 km、方位測定衛星(GPS)20,000 kmに対し、情報収集衛星・軍事衛星490 km、国際宇宙ステーション400 km。大陸間弾道ミサイルの頂点高度は1,000~1,500 kmに達する(3月に北朝鮮が打ち上げた「ロケット」は高度400~500 km)。

わかりやすくするために、身近にある地球儀(直径30 cm)の縮尺でそれぞれの高度をみると、地球儀表面から放送・通信衛星が85 cm、国際宇宙ステーションが約1 cm、大陸間弾道ミサイルが約3 cmの高さ、ということになります。高度12,000mの航空機はわずか0.3 mmにすぎません。



## 「破壊措置命令」で撃墜できない 日本政府の危険な対応

今回の事態に、日本政府は万が一に備えた「迎撃」のためパトリオット（PAC3）やSM3迎撃ミサイルを配備し「破壊措置命令」などと大がかりな軍事的対応をし、日本国民に「迎撃」が可能であるかのような印象を強く与えています。

では、ミサイルの「迎撃能力」はどうでしょうか。

	射程距離	頂点高度	秒速
大陸間弾道ミサイル	10,000 km	1,000~1,500 km	約 7 km
SM-3ミサイル	500 km	150 km	約 3 km
PAC3パトリオット	20 km	数 10 km	約 3 km

上述のとおりPAC3は射程20km、SM-3射程距離は500kmと長いですが、頂点高度は150kmに過ぎない。速度を比較してみると二つのミサイルの秒速それぞれ約3kmに対し、大陸間弾道弾の大気圏再突入時の秒速は約7km。外務省国際情報局長や防衛大学校教授を経験された孫崎享さんは「当然撃墜できません」「論理的に思考できる軍事の専門家なら、ミサイル防衛が物理的に意味をなさないことが分かります」（「これから世界はどうか」ちくま新書）と喝破されています。軍事専門家の中には「迎撃可能」という人もいますが、多くは「弾丸を弾丸で撃ち落とすより困難」と否定的です。

## どうすればよいか。データ整理後の私見

国連の安全保障理事会の決議に対して北朝鮮は反発していますが、核実験やミサイル発射は、かつて自らが合意した六か国協議や日朝平壤宣言などに背くものです。日本政府のように過剰な軍事対応の悪循環ではなく、国連決議や国際社会がいったん到達した前述の三つの枠組みにもとづく平和の環境づくり、対話のテーブルにつかせる国際社会の結束した外交努力こそ求められているのではないのでしょうか。

平和問題研究家 長尾正典

## 参考文献

宇宙ロケットの本	日刊工業新聞社	世界の統計 2015	総務省統計局
人工衛星の“なぜ”を科学する	アーク出版	日本の統計 2012	総務省統計局
見えない世界戦争	新潮新書	国連統計グローバルノート	
これから世界はどうか	ちくま新書	SIPRI 年鑑	
理科年表	丸善	日本共産党第26回大会決定ほか	
2016 データブック・オブザワールド			